

令和4年度 体力向上における各校の成果(小学校)

あわら市 教育委員会

No	学校名	成 果
1	芦原 小学校	<p>感染症対策を行いながら、運動会やマラソン大会などの体育的行事を実施することができた。</p> <p>秋のマラソン大会では、春のマラソン大会のタイムと比べ、タイムアップした児童が224名中82名いた。昨年に引き続き、コロナ禍によって児童の運動不足が不安視されていたが、結果的に児童の3人に1人がタイムアップできた。体育の時間に児童が体を動かす時間をしっかりとったこと、感染症対策を工夫しながら業間マラソンを行い、一人一人が目標を設定して取り組んだことの成果であると考える。</p> <p>マラソン大会や運動会は、制限がある中でも多くの保護者の方に参観していただいたことで、児童ががんばっている姿を見ていただくことができた。</p> <p>なわとび大会では、児童たちが普段から練習している成果を発揮することができた。休み時間にも、廊下や体育館などで多くの児童がなわとびに取り組んでいた。</p> <p>水泳の学校体育実技補助指導者にお越しいただき、専門知識をもった指導を受けられたことで、児童の水遊びや水泳に対する意欲と技能の向上につながった。</p> <p>ラジオ体操は今年度も引き続き、全学年でプール学習前に取り組むことができた。</p> <p>学校評価アンケートで、「業間マラソンや体力づくりに熱心に取り組んでいる」と答えた児童が96%で、目標の95%以上を達成できた。</p>
2	北潟 小学校	<p>業間運動では、晴天時に5分間マラソン、雨天時に雑巾がけリレーや平均台じゃんけんなど、校舎を使ったトレーニングをするという活動を取り入れた。これらの活動により、運動をする機会を増やしたり、多様な動きをつくる運動を行ったりすることができ、児童も意欲的に運動していた。</p>
3	本荘 小学校	<p>全校児童用アンケートで、体力づくりのためにマラソンに「十分」もしくは「ほぼ」取り組むことのできたと感じている児童の割合は86%であり、昨年度よりも上がった。</p> <p>なわとびカードを使ってうまくなろうとがんばったと感じている児童の割合は89%であった。</p>
4	金津 小学校	<p>握力、ボール投げの平均は昨年度よりおおむね向上したが、全国平均には及ばない学年が多い。</p> <p>マット運動や跳び箱運動で系統立てた指導方法を示したことにより、指導内容が明確になった。</p> <p>マットやボール等の備品の購入で、児童一人一人の運動の機会を確保することができた。</p>
5	細呂木 小学校	<p>体育科の授業で話し合い活動を多く取り入れることで、異学年での活動(運動会やなわとび大会など)でも、自然と児童同士が話し合い、相談しながら活動する姿が多く見られるようになった。</p> <p>マラソン大会は、2学年合同で実施しているが、互いに競い合ったり声援を送ったりする姿が見られた。各自が自分の目標をたて、保護者からの励ましのメッセージをもらったことで、低学年部門では1、2年生ともに10年ぶりに歴代記録を塗り替えた。</p>
6	伊井 小学校	<p>マラソンやなわとびの記録カードの活用や努力賞を設定したことで、自己記録の更新を目標にする児童が多くみられた。また、なわとびでは、学年の実態に応じて種目や目標回数を設定したことで意欲的に取り組む児童が増えた。</p> <p>デジタルワークシートの振り返りやタブレットの映像などから、できた喜びや上達した喜びを味わうことで、児童の運動に対する意欲が高まっていた</p>
7	金津東 小学校	<p>体力テストの結果から、20mシャトルランでは県平均を大きく上回っている学年が多く、持久力が向上していることがわかった。業間マラソン・なわとびは継続して取り組んでいきたい。</p> <p>全体的に県平均を大きく下回ったのは「握力」であった。今後も継続して体育の時間に「グーパー体操」を積極的に取り入れる他、雲梯や鉄棒遊びを推奨していきたい。また「上体起こし」や「長座体前屈」も、県平均を下回った学年が多いため、体育のウォーミングアップのときに腹筋を鍛えたり柔軟性を向上させたりするようなメニューを意図的に取り入れるなどしていきたい。</p>